

第十八回 美し国誌上講座

日本からよりよい世界を

明治神宮武道場 至誠館 第三代館長
元陸上自衛官

荒谷 卓



私は、平成十五年、米軍特殊作戦学校通称「グリーンベレー」に留学し、その成果を持ち帰って特殊部隊を創設しました。特殊作戦とは、例えばグローバル化のための政府転覆とか、アメリカにとって望ましい政権の維持のようなものです。アメリカ側は、当然日本もこういう活動の中に積極的に参加すべきだとの考えです。

しかし、私個人は、このような特殊作戦の実態を目にして、グローバル資本主義の考えに積極的に追随するということが、本当に日本にとって良い事なのかと疑問をもち、平成二十年に自衛隊の職を辞する決断をしました。

平成二十一年、明治神宮武道場至誠館の館長になり、毎年、欧州を中心に海外に武道指導に行っています。日本では武道人口は減少しております

すが、海外では武道人口が急増しています。これは色々な背景があつて一概に言えないのですが、多くの方々が日本武道に関心を示す理由は、その精神性にあります。

例えば、フランスでは、日本より先に青少年の倫理教育に日本武道を取り入れています。教会倫理に従属的な騎士道が政教分離で消えうせたフランスでは、人間の力で自らの精神性を高めていく日本の武道の価値を認め、青少年の教育に取り入れているのです。

私が館長に就任して、欧州に国際至誠館武道連盟が創設されました。設立の主旨には、「武道は日本の伝統文化に根ざしたもので、今日の世界的人類遺産の中でも極めて価値のあるものの一つである。日本武道の力と簡潔な美しさは、人間を惹きつける特有の精神と結びついており、

そしてその精神は日本人のエートスとも言える基礎を形成している。それによって、我々は世界の運命を正しく豊かな道へと導くため、民族間の理解と親和を強化するに努めようと思う」と記しております。

平成二十三年には、同じ様な趣旨の組織がロシアに創設されました。この組織の代表は、こんなことを言っています。「武士道は私達に、人間の原点に戻ることを教えてくれます。心と精神と肉体が調和し、正しい判断のもと誠実に道徳的に行動することや、他人の利益のために自己を犠牲にすることを恐れない日本の武士道は、世界に類を見ない崇高な精神です」。

何故彼らがこのように考えるのか聞いてみますと、現在のグローバル資本主義、自由競争主義が行き過ぎているという認識が背景にあるよう

です。今世界では、ポスト・グローバル資本主義を模索し、万民にとってよりよい世界秩序の方向性を出そうという段階まで来ています。そうした世界的大きな潮流と、武道精神は関連しているわけで、彼らは、我々日本人が考えているよりもっと大きな意味で、日本武道の精神的意義を捉えているのです。

明治神宮至誠館では、海外から武道と神道の研修生を受け入れていきます。海外研修生の論文の例を紹介すると『日本の「調和」の精神は心を和らげてくれました。私達は皆、恩恵を与えてくれた祖先に借りがあり、その借りを次世代に返す役割があります。この恩恵に対する「感謝のころ」は伝統的社会では受け継がれていても、個人主義的な現代社会では失われています。日本の社会には「感謝のころ」がしっかりと認

識され、存在していることを知りました。この「感謝のころ」が、日本だけでなく世界の国々の多くの文化で共感できる価値観だと思います。この「感謝のころ」を持つことによって、人々が同じ土台に立てるのです』。

日本人の中にはこういう受容と和の文化が自然に根付いており、他者を排除しないという社会の空気があると言うことは、ほとんどの外人が共通して指摘するところです。

八年前に、ポーランドで至誠館武道セミナーを開催した時、イギリス人の参加者の方の親友がアフガニスタンで亡くなったという訃報が届きました。そこで、セミナーに同行していた明治神宮の神官が「それでは貴方のご親友の鎮魂祭をやりましょう」と提案しました。

次の日早朝にみんなが集まって、

会場にある一番大きな木にしめ縄を張って、鎮魂祭を執り行いました。その時の神職の祝詞は、「かけまくも、かしこきキリストの大神の御前にかしこみかしこみも白さく・・・」と、亡くなった方が信仰していたキリスト様に鎮魂をお願いする内容でした。

そうしたら、そこに集まっていた約百名の欧州各国の参加者は、皆大感激なのです。こんなことがあるのかというぐらいの大感動なのです。インター・レリジョンとでも申しますか。宗教の境界を意図も簡単に乗り越え、鎮魂祭を為しえたのです。

また、祭典の様子を見ていたポーランド人が、カソリックに改宗する前のスラブの民族信仰の様子を描いた絵にも、木に縄を巻いて、神道の祭儀と同じ様なことを行っている、と言っていました。同じように、ド



平成 28 年「青少年国際武道講習会」の一環で、
日、露、仏の青少年が房総で武道合宿をした時の朝稲古の風景

イツで神道の祭典を執り行ったときも、神道の祭儀はゲルマン人の森の信仰そのものだと言っていました。

日本武道の中に人類共通のエートスがあるというのは、そういう意味なのです。

ジュネーブで開催された武道講習会に指導者と呼ばれときの開催場所は、欧州原子力核研究機構（CERN）という世界最大の素粒子物理学の研究施設です。

この施設では、宇宙はどのように出来たのかということを実験的に証明しようとしています。大体今分っているのは、宇宙の最初にはエネルギーのような非物質しかなかった。その非物質が高密度に凝縮したところでビッグバンが起きて、エネルギーが拡散していく中で物質が凝固し星が出来た。その物質は、一定期間経つとまた非物質に変換する。こう

いうことは、実験で証明されているそうです。

これは、キリスト教の信仰者やニュートン力学に閉じこもった科学者には、今まで正しいと思っていたことがどんどん否定されていく非常にショッキングなことです。

わたしはそこで、日本の神道の宇宙観、自然観、人間観を「古事記」を題材にして話をしました。古事記の冒頭は、『天地初発之時、於高天原成神名、天之御中主神』とあります。

宇宙の最初は、あめのみなかぬしのかみ天之御中主神が自ら中心となって成りました。同時に、たかみむすひのかみ高御産靈神とかみむすひのかみ神御産靈神が成ります。むすひ産靈とは、創造エネルギーのことで、高御産靈神は膨張する陽エネルギー、神御産靈神は収縮する陰エネルギーです。

中心が出来ると中心の周りをエネルギーが循環・還元するという宇宙

の基本構造は、素粒子物理学でいつている宇宙創造のイメージで、日本神話のイメージも最新の素粒子物理学と全く同じではないかと話が盛り上がりました。

武道では、心身の中心である丹田に気を充実させ、丹田を中心に気と力を循環・還元させるわけですが、CERNで実験している宇宙の真理を、武道では自分の心身を素材にして探求している。つまり、個人も宇宙も、素粒子物理学の真理も武道の心理も夫々がハーモナイズされているのだということに参加者は興奮を覚えておりました。

武道にも産霊むすひがあります。剣と剣を合わせることを「斬り結び」と言います。「切り結び」と言う言葉には、戦いにおいてさえも、敵の殺傷ではなく共生と創造を託す思いがこめられています。

この様な武の考えは、日本神話の中の、「国譲りくにゆずり」の中にあります。高天原の使者である武甕槌大神たけみかづちのおおかみが大国主神と国譲りの交渉をするとき、「大国主神がウシハク統治をしていることは宜しくない、天孫によるシロシメス統治、すなわち人々の心を知る統治が大切なのだ」と言葉を向け和を求めます。

大国主神はこれに納得しますが、息子の猛々しい建御名方命たけみなかたのみことは無言わず武甕槌大神に戦いを挑んだのです。いざ戦うと、武甕槌大神の武威は凄まじく、圧倒された建御名方命は、逃げに逃げ諏訪湖の湖畔に來て降参をしました。これに対して、武甕槌大神は殺すことなく、そこにお社を建てて建御名方命の武威を祀ったのが諏訪大社。それから日本で一番大きいお社である出雲大社を建てて、大国主神をお祀りした。ここ

には、勝った者が負けた者を尊び敬うという思想が出てくるのです。

私は、ドイツでケルンの大聖堂を見ました。ケルンはローマの植民地という意味で、カソリックの大聖堂の真下にはゲルマンの御社跡があり、それが発掘されて見学できるようになっています。つまりローマ軍が侵攻した時に、ゲルマン民族の神の社を潰して、その上に教会を建てキリスト以外の神を抹消していったのです。

日本では、全国に、その土地の産土神様うぶすなの、郷の氏神様等八百万の神様の神社がいつぱい残っています。つまり信仰上の排他的活動はしなかったという証です。日本の武神は、戦いの後は相手を尊び、その尊厳を損なわず祀ったのです。これが、武士の礼といわれることの根底の発想になっています。



あら や たかし
荒谷 卓

昭和 34年秋田県出身
武道家
明治神宮武道場至誠館第三代館長、
予備役ブルーリボンの会幹事。
元陸上自衛官(陸上自衛隊特殊作
戦群初代群長)。

合気道六段、銃剣道三段、空手道
初段、柔道初段。日本国外での武
道講習開催にも力を注いでおり、
現地での開催の様子は動画投稿サ
イトでも紹介されている。



■本体: 1,500円+税
並木書房

荒谷 卓 著
戦う者たちへ
日本の大義と武士道

日本建国の理念は、神武建国^{じんむけんこく}の詔^{みこと}に記されております。天下に一つの家のような国家を作り為すよう天皇と国民が協心努力しようではないか。「八紘為宇」という国民への呼びかけです。聖徳太子が十七条の憲法でいう『和をもって貴しとなす』も、明治天皇が五箇条の御誓文に記した『万機公論に決すべし』も、そして現在、『思いやり』『絆』等といったもののも全て八紘為宇の『和』の精神です。だから国の名も『大和』と定めたのです。

こう考えていきますと、これからグローバルゼーションの方向性をどうするのかという大きな課題の中で、世界の人々が、ポスト・グローバル資本主義を模索している段階とありますが、実は、日本人は答えを持っているのではないかという気がしているのです。

神武建国以来、「一つの家のような国家の創造」という考えで国を運営してきたことが、『世のため人のため』という社会倫理に昇華し、無自覚で利他の精神を発揮できるまでに進化

したのが日本文化です。

武士道精神とは、さらに自己犠牲もいとわず社会に貢献する崇高な精神です。それは、まさに自己利益追求の競争に偏向しすぎた現代の世界が必要としているものだと思います。

私は日本の伝統的文化を、武道を通じて世界中の人々に一生懸命発信して、日本文化には「今世界にとつて必要な崇高な価値観があるのだ」ということだけは、しっかりと伝えていこうと考えています。

P16の写真武蔵御岳山の縁広の滝で瞑をする筆者